

研究協議会 お疲れさまでした！

9月6日の課題部会研究協議会には、たくさんの方にご参加いただき、無事に終えることができました。本当にありがとうございました。また、アンケートの回答もありがとうございました。以下、皆さんからの意見の一部を掲載しています。これらの意見をもとに次年度以降の研究を進めていきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

アンケート結果

(1) 今回の研修会に参加しての感想・意見等をお書きください。(アンケートより一部)

<ボランティア教育>

- ・健常者と障がい者についての理解の仕方や今後、取り組めることなどが明確でとても良かったです。
- ・現在、4年生の総合で、福祉について学習しています。パラスポーツについても授業でも扱ったので、今回の講義で、子どもたちへ伝えるためのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・子どもたちが抱えている「障害者」のイメージは大人たちの言動で形作られているな～と改めて実感しました。大人の価値観の押し付けでなく、自分自身の体験を通して判断していく大切さを感じました。そのための経験の場を用意するのが仕事かなと思いました。
- ・障害についての教育は最初が大事だということが印象に残りました。「かわいそう」や腫れ物に触るようなネガティブなイメージではなく、工夫次第で色々楽しめること等を学ぶ大切さを教わりました。
- ・色々なパラスポーツの道具を運ぶだけでも大変だと思いました。そして、ただ、障がいのある人は大変だ、で終わらせず、どうすれば一緒に楽しめるか考えることが大切だ、とおっしゃっていたのが大変心に刺さりました。ありがとうございました。
- ・リモートだとやはり限界があると感じました。やはり、直接お聞きして、直接プレーしてみないと実感がわからないものですね。講義自体は、昨年のものと似た感じだったので、理解を深める形になったと思います。

<コミュニケーション>

- ・とても、とても、勉強になりました。子どもの家での生活や家族にももっと関心をもって「気にかけてあげる」ことの大切さを実感しました。ありがとうございました。
- ・ロールプレイの動画とても参考になりました。とてもリアルで、自分だったらどうやって話をしていこうかな、と考えて見ていました。「困っている」子にどうやって対応していこうか、と考えてしまいがちで、その本人もチームの一員として考える、という発想がいままでなかったので、新しい気づきができて良かったです。役員のみならず、準備・運営ありがとうございました。
- ・私は支援級なので保護者とのつきあいが濃厚になるので参考になりました。ありがとうございました。
- ・とても勉強になるお話をしていただき、ありがとうございました。不登校の生徒が学校に来ると頑張ってしまう過剰適応といった反応は、いつも学校に来ている子どもの中にも普通に学校に来ているけど、無理をしているという子はいるのでしょうか。
- ・きちょうなお話をたくさん聞けて、勉強になりました。ありがとうございます。教育相談や不登校対応など、

「そうそう」「あるある」と思う事例から、それに対する気の持ち方など改めて教えていただき、今後に生かそうと思います。講師の先生はもちろんのこと、事務局のみなさんの準備・ご苦労に頭が下がる思いです。ありがとうございました。

- ・保護者対応について、大変勉強になりました。何か解決しなければという気持ちになる事もとてもよくわかり、気を付けて対応していかなければならないなと感じました。話しやすい雰囲気づくりや、寄り添うことなども大切にしながら関わっていきたいと思います。
- ・具体例での考察は大変勉強になりました。母親が父親の悪口を言っている時には同調してはいけない、ということでしたが、子どもが親の悪口を言っている時、「それはひどいね」と言いそうになってしまう時があります。「そう言われて辛かったね」と、できるだけ本人の気持ちに共感するのみでとどめようと気をつけてはいますが、難しいな、と思います。
- ・教育相談の方法や事前のアセスメントの大切さなど勉強になりました。多少、聞きとりにくいところがあったのが残念です。
- ・①レポート交流 秋元先生の「何かあった？」は、是非真似したいです。このような一言が、子どもの心を掴むと思います。②理論研修の「過剰適応型」も学びになりました。というように、今年度も大収穫の生き方部会でした。

(2) 今後研修したい内容やオススメする講師がいれば記入をお願いします。

- ・HASの方々が実際に活動している内容等聞けると面白いのではないのでしょうか。大山先生は続いています、実際にお会いしたのは1度なので次年度対面でできれば大山先生もよいと思います。
- ・今年度江別市内の教職体でモルックを実施しています。全ての学校にモルックが2セットずつあります。それを活用して何かできたら良いですね。
- ・また、来年も佐藤先生でも嬉しいです。いろんな、お話が聞きたいなあと思いました。
- ・不登校生とタブレットを使って直接交流できる方法など。
- ・不登校児童の増加傾向を踏まえ、面接技法も大切ですが、困り感のある児童と家庭に、具体的な支援の可能性を提示できるよう、具体的に、支援方法やSCやSSWとの連携について学ぶのはどうかと思いました。(SC・SSW。あと、発達支援や特別支援に少し寄ってしまうかもしれませんが、放デイ、相談支援事業所、適応指導教室などについて、不登校という事象を通して、児童生徒がどういう困り感があるのか、どういう場合にどういうタイミングで、最適な施設や職種に繋がるのがよいのか、またはそのプロセスを教員が知っておくことも大切かと思いました)講師については、北海道臨床心理士会に問い合わせるか、不登校児への心理指導や発達支援などを行っている「放課後等デイサービスはな <https://www.tokiwahp.jp/relation/child/west03.html>」の本阿彌はるな先生が良いかと思いました。
- ・生き方部会…は扱う題材が多岐にわたりますが、もしこじ付け？的にうまくいくようなら、ファイターズ職員(元選手のアカデミーの講師の方など、講演が上手な方がいると聞きました)のお話を聞いてみたいです。ボールパーク元年なので(^)

不登校対応あるある

学校「学校に来てしまえば楽しそうにしているから、来ればいいのに」
家庭「学校に行くと、その後、寝込んでしまったり暴れたりする」
子ども「学校に行くと、行くだけで精一杯なのに、『給食食べて行ったら』と言われて引き止められる」

過剰適応型

「自分」がよく分からず、周囲からよい評価を得たり、怒られないということが大事と考えている。

学校にいる間は楽しそうに見せるのが正しいと思っているので、精一杯がんばり、方寸を失ってしまう。

良い子の過剰適応型の場合は、成績もよく、適応が良いが、発達障害の子は、本人は人の10倍の土まじりを使っているが、やはり周囲とずれる。



※コミュニケーション分科会に参加した方から講師への質問がいくつかありました。佐藤先生から返答がありましたので載せさせていただきます。

- ・講師の方が、児童に「なぜ学校へ行くのか」と問われたとき、なんと返答するか伺いたいです。
- ・とても勉強になるお話をしていただき、ありがとうございました。不登校の生徒が学校に来ると頑張ってしまう過剰適応といった反応は、いつも学校に来ている子どもの中にも普通に学校に来ているけど、無理をしているという子はいるのでしょうか。

<ここからが講師からの返答となります>

答えになっているかどうか分かりませんが。

子どもに「なぜ学校に行くのか」と問われたら、一緒に考えることです。ありきたりの答えをしないことです。子どもがなぜその問いを発したのかが分かることが大切です。

とことん聞くと、なぜか子どもは満足します。

昔、高校生に「どうして人を殺してはいけないのか」と聞かれました。すごく難しい哲学的な問いだと感じ、真剣に1時間かけて話し合いました。

なんの結論も出ませんでしたでしたが、満足してもらえました。

その子は、今まで試金石のように多くの大人にこの問いを発し、「当たり前だろう」「高校生にもなってそんなことも分からないのか」

と言われ、内心、大人はそんな問いにもこたえられないのかと思っていたのでした。

過剰適応というのは、かつては「よいこの過剰適応」と言われていましたが、昨今は、「過剰に適応しなくてはいけない」と思っている子を指すので、

ちっとも適応的ではない子も含まれます。特に自閉症スペクトラムの子の中には、うまくとけこめないために、全身の神経をとがらせ、なんとかみんなと同じふるまいを

しようとするために、疲れ果ててしまいます。

「普通に学校に来ている」と見えているけれど、本人は不断の努力をして普通に見せかけているだけということはありません。